

山形城 山形市霞城町 3

延文元年（1356）に羽州探題として山形に入部した斯波兼頼（最上家初代）が築城したのが始まりと伝えられ、現在の城郭は第11代城主最上義光（1546～1614）が築いたものが原型とされる。本丸・二ノ丸・三ノ丸の三重の堀と土塁で囲まれた輪郭式の平城。1875年（明治8年）建物は解体されたが、現在残っている二ノ丸の堀や土塁・石垣は、最上家改易後、元和八年（1622）に城主となった鳥居忠政により整備されたと伝えられる。二の丸東大手門は明治時代に喪失していたが、1991年に市制100周年記念事業として木造建築様式で復元された。（パンフ、旅コト300藩②）



南大手門



大手門に架かる広い濠



二の丸南大手門



二の丸南大手門雁木



大手門上から



堀の礎石



最上義光の像



二の丸東大手門(台湾檜が使われている)



濠



東大手門に架かる門